

### 創り出すもの

長年、本の読み聞かせや家庭文庫などを通して、子どもたちと本の活動をしている私は、仲間とともに、図書館を中心にしたまちづくりを、紆余曲折しながらも行政と「協働」という形で実現してきた。お互いの立場の違いを知り、認め合う。そして情報を共有し、目的を同じくしてともに歩む。このプラスの経験が活かされたらなあ、市民参画による「8次総市民ワーキング」の一員となった。このワーキングで、行政側の仕事ぶりや市民ときちんと向き合おうとする姿勢を感じるたびに、私はあらら大変！と勉強不足の単細胞な頭のネジをあたふたとしめ直している。

市が、将来像として掲げている「人が輝き まちがきらめく快適・環境都市 鳥取」が絵に描いた餅にならぬように見守り、まちづくりをともに進める1人として、関わっていけたらと思う。棚からぼた餅の時代は終わったのだから、自立した市民をめざし、私なりのペースで動き出そう。子どもたちにふるさとを伝えていく大人として。



山田  
Setsuko Yamada  
節子さん

気高町殿

### 「協働」の意義を考え直す

このワーキンググループに参加して、これまで接点のなかった方々と意見を交わし、それが反映され形となっていくのを目のあたりにし、まとめ役である鳥取市の皆様の努力、熱意に敬意を表したいと思います。しかし、市民と行政との「協働」という観点から見ると、これはまだ手探りの状態にあると考えます。総合計画に対し我々には責任がありません。よって発言も現実をあまり考えず自ずと理想論的となり、現場の方とのギャップは大きかったのではと想像します。「協働」の手法について、その意義から考え直さなくてはいけないと感じました。一方、現在の鳥取市の財政を考えると、ああすればいい、こうしてほしいと好きなことばかり言っていられない状態にあると思います。我々はどこまで行政に頼っていいのか、自分自身もっと頑張れることがあるんじゃないかと自問自答し、新しいまちづくりをしていかなければと考えます。



井坂  
Kimihiro Isaka  
公博さん

相生町二丁目

8次総市民ワーキングは、市民委員35人と市職員で構成する7つの部会からなり、総合計画の素案づくりを行っています。さまざま分野でご活躍中の委員さんから、本市の現状、課題、将来を見通した意見・アイデアをいただき、市職員もともに考え、創造的な議論を行っています。その中から、4人の委員さんの声をご紹介します。

なお、各部会での意見などは、鳥取市ホームページ（アドレス…19ページ）でご覧いただけます。

## 私も参加しています

市民ワーキング委員のみなさんの声を紹介



地場産業振興部会の様子

### 市民主導のまちづくりを

総合計画の策定に当たり、私が一番にポイントとしているのは、行政主導によるものではなく、市民主導により、市民のニーズに的確に呼応した計画であるか?!ということである。それには、市民アンケートなど、市民の要望を把握しつつ、具体的に住民の身近に及ぶように策定していかななくてはと思う。

かといって、ミクロ的な身近な事柄にとらわれるあまり、本来の5年先、10年先を見据えた大局的なマクロビジョンをどこかに置き忘れた、といったものであってはならない。合併、20万都市…といった、住民の期待と不安が交錯する中、少子・高齢化の時世においても、住民主導で行われていく胎動こそが、住民自治であり、ひいては地方自治につながっていき、総合計画の計画たり得んと思うのである。

こうした計画策定に携わらせていただくことに感謝申し上げますとともに、今もさることながら、次代に栄えらんことを願ってやまない。



福安  
Osamu Fukuyasu  
修さん

佐治町尾際



和食  
Fumie Wajiki  
文恵さん

御弓町

### 人的資源の可能性は 人と人との関わりから

総合計画の策定作業に参加させていただいていますが、市民アンケート調査報告書の資料を見て、市民から寄せられた声は幅広く、年齢も住んでいる環境も違い、価値観も違うのだと改めて思いました。

市役所の方々は、寄せられた批判的な意見、前向きな意見などさまざまな声を記録し、それに基づき総合計画案の作成をしてくださっています。一人ひとりの声を大切に、市政に活かしたいという思いが伝わってきます。

みなさんも無関心にならず、関わりをもっていただきたいと思います。財政や資源には限界があります。しかし、人的資源の可能性は、人と人との関わりから生まれます。声を掛け合い、人が輝く鳥取市をめざしていきましょう。